

## 新潟県技術委員会小委員会傍聴概要

日 時	平成20年3月14日(金) 13時半～15時半	平成20年3月17日(月)13時半～15時半
場 所	新潟市 朱鷺メッセ …3階 中研修302B…	新潟市 自治労会館 …6階 大ホール会議室
傍聴内容	「設備健全性、耐震安全性に関する小委員会」(第1回)	「地震、地質・地盤に関する小委員会」(第1回)
傍聴参加者	— 委員 — 上村委員・武本委員・牧委員…… 3名 — 事務局 — 広報センター事務局長 押見	— 委員 — 佐藤委員・武本委員・牧委員…… 3名 — 事務局 — 広報センター主査 木村

### 【内容】

#### 14日…(設備・耐震小委)

##### 議題

- (1) 国の調査・対策委員会等での検討状況について(県より説明)
- (2) 東京電力の国への報告事項と検討状況について(東電より説明)
- (3) 小委員会における今後の検討の進め方について

#### …地域の会委員 傍聴后感想…

- ・ 会議時間が2時間の設定だったが、前半1時間位は資料説明に費やし、実質的な審議時間が短く、十分な審議が出来なかったと思う。
- ・ 東京電力の説明内容は、既に「地域の会」定例会で受けていた内容であった。
- ・ 各設備等の地震により受けた被害の解析等については、東京電力の説明だけでなく、「メーカーからも聞きたい」との小委員会委員の要望に同感である。
- ・ 地震の影響で、「なぜ壊れたのか」の解析のみでなく、「なぜ壊れなかったのか」の解析も必要であるとの、小委員会委員の意見に、関係者は大変だと思った。
- ・ 行政当局は、今までは原子力発電に対し推進の考えを持つ学者等からの意見を聞くだけだったが、今回の地震を受けて今後は、反対や慎重な考えを持つ学者等、多方面の意見を聞いて行かなければならず大変であると思う。
- ・ 国の耐震基準で作った設備で想定外の揺れが来たのだから、今のままで点検しても意味がない。  
新基準を作ってその基準に合わないものは補強するなり、基準に合ったものに変更すべきと思う。

- ・ 壊れなかったからよかったではなくて、今までの基準より強度があったから壊れなかったとか、はっきりしない設備は全部変える必要があると思う。
- ・ 原子炉の強度は例えばM7.5になっているから壊れないとかの説明をすべきと思うが？  
ただ壊れないからもう一度使うということでは不安を感じる。

## 17日… (地質・地盤小委)

### 議題

- (1) 国の調査・対策委員会等での検討状況について (県より説明)
- (2) 東京電力の国への報告事項と検討状況について (東電より説明)
- (3) 小委員会における今後の検討の進め方について

➤ 小委員会の設置について、県、松岡課長より説明

➤ 東京電力の国への報告事項と検討状況について、東電より説明後、質疑  
(小委員会委員の主な問題提起)

- ・ 東京電力は、F-B断層と褶曲関連断層との関係について、どのようなお考えか。
- ・ 今問題となる新しい時期の断層、あるいは断層の活動性を評価する上で、P波では無理ではないかと思っているが、この点をどのように考えておられるか。
- ・ 実際に地震が起こるのであろう、深い地点の地下構造をどのように把握しようとしているのか。
- ・ 中越沖地震は深さ10km位で起こっている。今の東電の探査手法で、実際に地震を引き起こすような断層面を捉えることができるというふうに考えておられるか。
- ・ 1300mのボーリング調査とあるが、ここの地震基盤はもっと深い。その間の下の速度構造について、どのように検証しモデルを作っていくのか。
- ・ 離れた場所のボーリング情報でモデルを作るのはいいと思うが、余震の記録等、必ずチェックをしていく必要がある。新たな調査を含め、深い地盤についても新しい知見なり、直下の情報を知ろうという努力は非常に重要。

➤ 小委員会における今後の検討の進め方について、県より説明後、質疑  
(検証するテーマに対する委員意見)

- ・ 事務局の検討事項案については全体としては適切。但し、なぜ過小評価が行われたのかということの整理が必要。2006年の新耐震設計審査指針に基づき、断層値20kmということでやれば、今回の予測が出来るのかという検討をすべき。この点は調査・対策委員会でも議論されていない。
- ・ 原発敷地内の地殻変動について、原子炉やタービン建屋で微妙に異なった隆起や沈降が見られる。この説明が非常に困難だと思っている。地質科学的に解析をしておかないと、どのように対応するかということが分からない。
- ・ 陸域断層の調査で、実際に地震は10km前後の深さで起こるのに対し、今の手法だけで、予測が可能なかどうか、きちんと議論させていただきたい。陸域断層の調査で、実際に地震は10km前後の深さで起こるのに対し、今の手法だけで、予測が可能な

かどうか、きちんと議論させていただきたい。

- ・ 保安院が海域で行った3次元地下構造の解析だが、結果的には2次元のデータしか得られていない。調査した海域は何を明らかにしようとした地域なのかが伝わってこない。調査・対策委員会で報告されながら、素通りで実行されたというシステムについても疑問。
- ・ 近々においては、「活断層の調査とその評価」について、集中的に議論してはどうか。
- ・ 断片的なデータを示されても判断が難しい。地元の早く知りたいとする声もわかるが、ある程度まとまった段階での議論を望む。

➤ 次回以降の日程

- ・ 次回 4月21日(予定)
- ・ 次々回 5月19日(予定)

…地域の会委員 傍聴后感想…

- ・ 学者が本音で意見交換する様子を感じることができた。ようやく、本質議論ができる委員会ができたと感じた。
- ・ 2人の委員が欠席の中でのスタートは残念であった。
- ・ 国の各種委員会のように、ただ事務局から出された資料に基づいて議論されるだけでなく、各委員が自分の知見で議論が展開されるといいと思った。
- ・ 次回から断層問題や陸海域の断層問題が議論される。どんな議論が展開されるのか、期待をもって見守っていきたい。
- ・ 2月だと思うが、原発沖の海底三次元調査だが、最新の技術と思われる探査船を使って二次元しか測定できなかったというのは意味がないと思う。  
再度やり直して海底をより正確に探査してもらって安心できる海底なのか、安心できないのか、はっきりしてほしい。  
もう地震はこないのか、来るとしたらどのくらいか？